

各関係機関長 様

熊本県病害虫防除所長

イグサシンムシガの越冬調査結果（技術情報第19号）について（送付）
八代地域で3月24日に実施したイグサシンムシガ越冬調査の結果及び防除対策
を下記のとおり取りまとめましたので、業務の参考にご活用ください。

記

今年の越冬世代（幼虫＋蛹）の発生密度は平年よりやや多く、発蛾最盛日は4月11日と予測される（平年より1日早い）。
防除は、粒剤では発蛾最盛日、液剤及び粉剤は発蛾最盛日の7日後を目安に7日間隔で2～3回行う。

1 調査方法

- （1）調査時期 令和7年（2025年）3月24日
- （2）調査地点 八代地域12ほ場（表1）
- （3）調査方法 各地域100株の被害茎数および幼虫、蛹数を見取りで計数した。
なお、蛹化率の算出には100株以上を調査した。

2 結果

- （1）幼虫及び蛹の密度は4.7頭/10㎡（平年3.0頭/10㎡）と平年比やや多であった（表1、図1）。
- （2）3月24日現在、越冬世代の蛹化率は同時期の平年並みで、発蛾最盛日は、平年より1日早い4月11日と予測された（表2）。

3 防除対策

- （1）「長イ」を加害する第2世代幼虫の発生密度を抑えるため、4月に発生する第1世代幼虫に対する防除を徹底する。
 - （2）防除適期は粒剤が発蛾最盛日、液剤及び粉剤は発蛾最盛日7日後を目安にする。なお、気温の変動によっては羽化がばらつくので、発蛾最盛日から7日間隔で2～3回の防除を行う。
 - （3）予測される発蛾最盛日は、ほ場によって差が生じるので、ほ場内の発生状況をよく観察し、防除時期を判断する。
- ※今後のイグサシンムシガに関する情報（発蛾最盛日予測、予察灯データ）については、4月から病害虫防除所ホームページ
(<https://www.pref.kumamoto.jp/soshiki/75/125504.html>) に随時掲載する。

表1 イグサシンムシガ越冬密度と被害状況（調査日：令和7年3月24日）

No.	市町村名	地 点 名	調査株数	被害茎数	幼虫数	蛹 数	合計	頭数／10m ² (幼虫+蛹)	茎数／株
1	氷川町	中島	100	7	2	0	2	5.6	93.4
2		鹿野	100	4	0	0	0	0.0	55.6
3		網道	100	3	0	0	0	0.0	61.6
4		両出	100	6	2	1	3	8.4	65.2
5		鏡村	100	0	0	0	0	0.0	85.6
6		北新地	100	3	0	1	1	2.8	78.6
7		古閑出	100	0	0	0	0	0.0	49.0
8	八代市	太牟田	100	4	0	0	0	0.0	43.8
9		吉王丸	100	1	1	0	1	2.8	38.0
10		松高	100	2	1	2	3	8.4	35.0
11		金剛	100	0	0	0	0	0.0	32.2
12		日奈久	100	10	4	6	10	28.0	40.4
計			1,200	40	10	10	20	4.7	56.5
平年			1,630	48	12	7	19	3.0	

注）栽植密度は280株/10m²とした

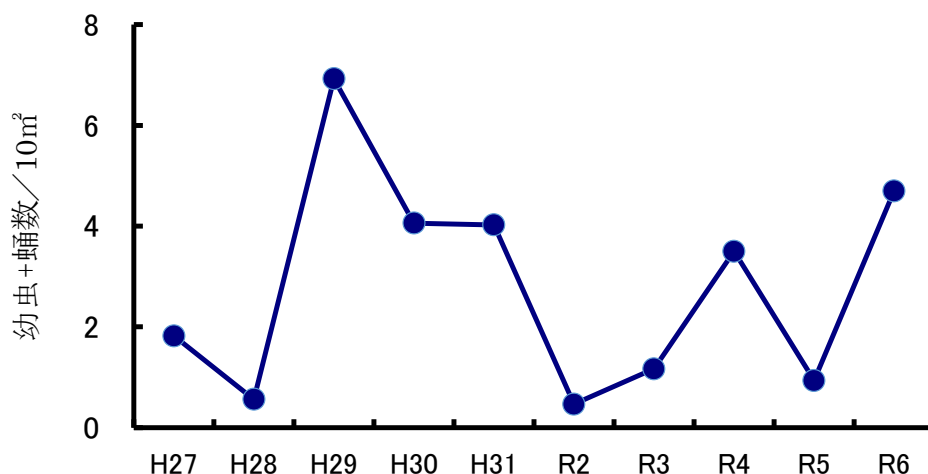


図1 イグサシンムシガの越冬世代幼虫+蛹密度の年次推移（八代地域）

表2 越冬世代の蛹化率および発蛾最盛日

年 次	調査日	蛹化率（%）	発蛾最盛予測日（実測日）
本 年	3月24日	31.7	4月11日
前 年	3月18日	25.0	4月 7日（6日）
平 年	3月25日	37.4	4月11日（12日）

注）蛹化率：（蛹数/（幼虫数+蛹数））×100

幼虫、蛹数は、全地点の合計（一部ほ場では対象100株以外で確認した数を含む。）。

予測式：調査日の蛹化率と過去10年間の「調査日の蛹化率係数（傾き）」と「調査日から発蛾最盛日までの日数係数（切片）」を用いた予測式

発蛾最盛日＝調査日の蛹化率（%）×（-0.2985）＋（27.071）－（31日－調査日）

実測日：乾式予察灯（地点：八代市千丁、鏡）で4月に誘殺のピークが見られた日

問い合わせ先

熊本県病害虫防除所（農業研究センター生産環境研究所内）

担当：守田 TEL：096－248－6490